



News & Topics

- 平成26年度入学式を挙行
- 山中伸弥教授特別講演会を共同開催
- 就職内定率 学部生99.1%

連載

研究室訪問

- 食品栄養科学部 ケミカルバイオロジー研究室
環境微生物学研究室

活躍する卒業生

- 経営情報学部

図書館だより

- 「文献検索ポータル」
- シリーズ「私の1冊の本」

平成26年度開学記念行事を開催

今年で23回目となる開学記念行事を平成26年4月22日に開催しました。学生や教職員が運動会や特別講演会、懇親会などを通じて交流を深め、大学のさらなる発展に向けて決意を新たにしました。

第1部の「運動会」は、前日までの雨でグランドが使用できず、体育館での開催になりました。参加者は、赤、青、緑、黄色の4グループに分かれて、限られた空間を物ともせず、熱い戦いが繰り広げられました。今年は、黄色チームが優勝しました。



玉入れ

障害物リレー

第2部は、静岡市駿河区のグランシップで、京都大学 iPS 細胞研究所所長 山中伸弥教授(2012年ノーベル生理学・医学賞受賞)の講演会(主催:静岡県、静岡県教育委員会、静岡県立大学)が開催されました。

山中教授は講演の中で、自身のこれまでの研究経緯を踏まえ「目標のビジョンを持って物事に打ち込むことの重要性」を学生たち若い世代に向けて語りました。この講演の様子は本学大講堂でもインターネット中継され、多数の教職員、学生が聴講しました。



講演する山中教授



大講堂のインターネット中継

第3部の「はばたきのつどい」は学生ホールで開催し、多くの教職員、学生が参加しました。今年のおおとり会賞表彰は、大石哲夫先生の熱心な指導の下、リーグ戦に出場し東海学生ラグビーCリーグ2位の成績を取めた「ラグビー部」が受賞しました。

また、第1部の運動会の表彰や毎年恒例となっているジャズダンス部とチアダンス部(GOLD ROWDIES)のアトラクションが披露され、大いに盛り上がりました。



奥副学長から表彰状を受け取るラグビー部



チアダンス部のパフォーマンス

平成 25 年度学位記授与式

平成26年3月18日、平成25年度学位記授与式を静岡市駿河区のグランシップで挙行了しました。学部卒業生541人、短期大学部卒業生211人、大学院修士135名の合計887名に学位記が授与されました。

木苗学長は式辞において、「夢と希望を持ち着実に歩むことが成功への近道。国際的にも経済的にも不安定な時代だが、『目標を持つこと』『挑戦すること』『感謝すること』の三つの言葉を胸に進んで欲しい。第二の故郷である静岡県そして県立大学から、国内外へ若鳥のように大きく羽ばたいて欲しい」と述べました。

続いて本庶理事長は、「本学の卒業生として、知識人として期待される諸君は、社会に対して何を成すべきか」と卒業生に問いかけたうえで、「様々な事象の『データ』を抽出・分析してひとつの『情報』とし、それを『知識』として社会で共有できる仕組みに体系化することが知識人の存在意義。真の知識人として、事象が示す真の意味を深く考え物事にあたって欲しい」とメッセージを送りました。

卒業生を代表し、国際関係学部の平田清香さんが学生生活を振り返り、「授業を通して知識の無さを痛感した経験が、自分自身と、自国の文化を見直すきっかけとなった。大学で身に付けた学びの姿勢を生かし、これからも様々なことに挑戦し吸収していきたい」と抱負を述べるとともに、「大学生活を共有した友人たちの存在は何事にも代えがたい財産です。そして、大学4年間の成長は、温かく時に厳しく励ましてくれた周囲の支えがあってこそです」と感謝の意を述べました。



蛍の光を斉唱し、大学生活に別れを告げる卒業生

平成 26 年度入学式

平成26年4月8日、平成26年度静岡県立大学入学式を静岡市駿河区のグランシップで挙行了しました。今年度は新たに食品栄養科学部環境生命科学科が新設され、看護学部の入学生定員増により、学部・大学院・短期大学部合わせて、960人の新入生がそれぞれの夢や目標に向かって新たな一歩を踏み出しました。

木苗学長は、「大学は、自らの責任で学ぶべき教科を選択し、将来の進むべき道を考える場。皆さんは人生にとって極めて大切な時期を迎えている。直面する課題に果敢にチャレンジし、先生や先輩と大いに議論して下さい」と式辞を述べました。

続いて本庶理事長が、「幅広い教養を身に付けるということは、知識を通して世界を知り、自分を知るということ。本学は、皆さんが目指す道を自覚するために必要な専門的知識を得られるよう最大限に支援したい」と挨拶しました。

新入生を代表して、看護学部の水野紗耶香さんが「大学生活という、大きな可能性を秘めるとともに限られた時間の中で看護学を学び、誇りを持った看護職者として地域に貢献できるよう日々研鑽に励みたい」と決意を述べました。

式典後には、恒例となった木苗学長による学長一時間目の授業が行われ、本学の魅力や特色について紹介し、学生生活を充実させる方法について講義しました。続いてクラブ・サークル紹介が行われ、アカペラサークルとジャズダンス部、チアダンス部が華やかなパフォーマンスで新入生の入学を歓迎しました。



大学生活の決意を述べる水野さんと新入生

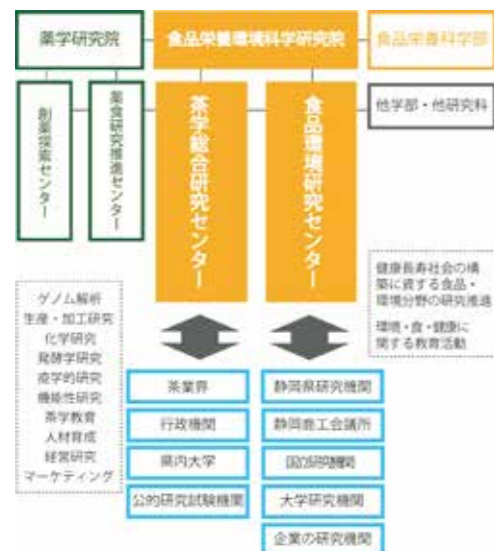
大学院に食と健康を研究する二つの拠点「食品環境研究センター」と「茶学総合研究センター」を開設

平成 26 年 4 月 1 日に大学院食品栄養環境科学研究所の附置センターとして「食品環境研究センター」と「茶学総合研究センター」を開設しました。

超高齢社会を迎えた今、食と健康に関連した環境問題の解決に貢献できる人材の養成は不可欠となっています。この課題に大学として取り組むため、環境科学研究所を平成 25 年度をもって発展的に解消し、4 月から食品栄養科学部に新たに環境生命科学科を設置するとともに、研究体制をより強化すべく食品環境研究センターを開設しました。

センターでは、食品・栄養・環境科学の各分野の研究を通して、地域における健康福祉の向上と産業の活性化への貢献を目指し、「食と健康」「環境と健康」に関する研究、地域への教育・啓発活動などを行います。

また、平成 25 年 5 月 1 日に開設した茶学総合講座を、附置センターとして拡充した茶学総合研究センターは、本学の茶に関する研究情報を各専門分野を越えて一元化を図るとともに、県内の他大学や研究機関をはじめ行政・茶業界とも連携して茶業振興に寄与することを目的とするほか、健康面では茶の機能性及び疫学に関する研究をはじめ、学生に対しても茶学教育を行い人材の育成を図ります。



食品栄養環境科学研究所附置センターの連携体制

社会人学習講座の教室を静岡駅周辺に開設

平成 26 年 4 月、本学大学院社会人学習講座の専用教室がJR静岡駅近くの複合ビルにオープンしました。

平成 21 年から平成 25 年度にわたり、医療経営研究センターが主催する医療経営講座の会場として使用していた浮月ビル内の同施設を、より多くの方に受講・ご利用いただけるよう、スルガ銀行株式会社のご協力のもと、社会人向け講座の専用教室として新たに開設しました。教室の運営は地域経営研究センターと医療経営研究センターが行います。

教室ではこの春からすでに、会社員や公務員、医療関係者などのスキルアップやキャリア開発を目指した講座をスタートしており、今後様々なテーマで社会人学習講座を行う予定です。

■スルガ銀行寄付社会人学習講座教室

静岡市葵区紺屋町 11-1 浮月ビル 4 階
医療経営研究センター内

■大学院経営情報イノベーション研究科附属

地域経営研究センター
<http://crms.u-shizuoka-ken.ac.jp/>



教室で握手を交わすスルガ銀行 岡野光喜社長(左)と木苗直秀学長(右)

就職内定率 昨年に続き好調 学部生 99.1%

平成 26 年 3 月卒業（修了）者の就職状況は、依然として厳しい雇用情勢が続く中、本学学生は内定獲得まであきらめずに粘り強く就職活動を行いました。学部生の就職内定率は 99.1%で、全国の平均値（94.4%）や県内大学の平均値（92.1%）を大きく上回る結果となりました。

大学院修了者の就職内定率は、97.7%で、大学全体の就職内定率は 98.9%でした。

統計：キャリア支援センター

●平成26年3月卒業者の就職状況(平成26年3月31日現在)

	薬学部	食品栄養科学部	国際関係学部	経営情報学部	看護学部	学部計	大学院	合計
就職内定率	100%	100%	97.6%	100%	100%	99.1%	97.7%	98.9%
(前年度)	100%	100%	95.5%	100%	100%	98.4%	100%	98.7%

●平成26年3月卒業者の主な就職先(平成26年3月31日現在)

薬学部 薬学研究院	アステラス製薬、田辺三菱製薬、協和発酵キリン、興和、大正製薬、小野薬品工業、久光製薬、ロート製薬、ツムラ、静岡県立病院機構、静岡県
食品栄養科学部 食品栄養環境科学研究所	ヤヨイ食品、オリエンタル酵母工業、日研フード、ヤクルトマテリアル、焼津水産化学工業、いなば食品、磐田市立病院、静岡県、静岡市
国際関係学部 国際関係学研究所	矢崎総業、ヤマハ発動機、ジヤトコ、ミズノ、鈴与、三井倉庫、静岡鉄道、ANA中部空港、静岡銀行、楽天、静岡市、静岡県教員
経営情報学部 経営情報学研究所	浜松ホトニクス、スター精密、静岡ガス、日本郵便、野村証券、静岡銀行、清水銀行、NECソフト、静岡新聞社・静岡放送、静岡県
看護学部 看護学研究所	静岡県立こども病院、静岡県立総合病院、静岡県立静岡がんセンター、浜松医科大学医学部附属病院、国立国際医療研究センター、静岡市

キャリア支援センターでは、企業の採用活動の進行に合わせ、年間 34 種類以上のキャリア形成・就職支援講座や学内企業説明会を開催するとともに、求人開拓員による企業訪問や専門のアドバイザーによる個別相談を実施するなど、きめ細かな支援を行っています。

短期大学部が韓国・大邱保健大学と初の大学間交流協定を締結

短期大学部ではこのほど、韓国の大邱保健大学と大学間交流協定を締結しました。平成 26 年 3 月 27 日に小笠原キャンパスの短期大学部において調印式が執り行われました。短期大学部としては初めての大学間交流協定となります。

大邱保健大学とは、平成 21 年に同大学から歯科衛生学科の客員共同研究員を受け入れたことをきっかけに、平成 24 年に本学で開催した国際シンポジウムに同大学から講師を招聘するなど、交流を深めてきました。

同大学は 1972 年に設立され、歯科衛生学科、社会福祉学科、看護学科と、短期大学部と同様の学科を有する、保健系の大学として韓国では有数の私立大学です。今後、両大学間の学生交流、共同研究の促進を通じて、グローバルな人材の育成や、本学の教育・研究水準の向上が期待されます。



調印書を手に、大邱保健大学ナム・ソンヒ総長(左)と木苗学長

モスクワ国立国際関係大学から 短期交換留学生が来学

本学と大学間交流協定を結んでいるモスクワ国立国際関係大学から、短期交換学生交流事業による派遣学生として、ルスラン・カントゥル (Ruslan Alekseevich Kantur) さんと、アンナ・メリキナ (Anna Viktorovna Melkina) さんの2名が4月に来学しました。

お二人はモスクワ国立国際関係大学国際関係学部の3年生で、6月25日までの3か月間、静岡市内のホストファミリー宅にホームステイしながら、本学の国際関係学部で日本語や日本文化について学びます。

同大学とは平成3年に交流協定を結び、短期交換留学のほか、教員の交流や共同研究を行っています。



木苗学長や本学教職員との記念撮影
カントゥルさん(写真中央)とメリキナさん(右から2人目)

ジャーナリズム公開講座を開催

本学のグローバル地域センターの小川和久特任教授が中心となり、「ジャーナリズム公開講座」を平成25年10月から平成26年2月にわたり静岡市内で開催しました。

第1回公開講座は小川和久特任教授が「NEWSを疑え!いま、なぜジャーナリズム公開講座なのか」と題して講演しました。

この講座は「ジャーナリズムの向上による民主主義の向上」を目指したものです。

民主主義のシステムにおいては、国民の代表である国

会、ジャーナリズム、アカデミズム(シンクタンクを含む)が専門的知見によって政府の動向を不断に検証し、ときには助ける営みが必要不可欠です。その中心は、国民(納税者)の代表をも検証できるジャーナリズムです。

しかし、日本にはそうしたジャーナリズムの位置付けが希薄で、とりわけ専門知識が問われる安全保障、危機管理、原子力、ITなどの科学分野においては、十分な検証能力を備えていない印象さえあります。

そんな日本の現状を打開し、日本と静岡の安全と繁栄を確実にしたいとの思いから公開講座を開催しました。

第2回(11月7日)には日本大学芸術学部講師の坂本衛氏、第3回(12月5日)にはニュースキャスターの長野智子氏、第4回(1月23日)には立命館大学客員教授柴山哲也氏、そして第5回(2月20日)にはジャーナリスト田原総一郎氏を講師に迎え、開催しました。

公開講座には、延べ430人の皆様に参加いただき、講演後に活発な質疑応答がなされ、盛況のうちに終了しました。



講義中の小川和久特任教授



講座の最終回に登壇した田原総一郎氏

平成25年度ホスピタル・ プレイ・スペシャリスト養成事業報告

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)は、英国で誕生した専門職であり、病気や障害を持つ子どもが治療で感じる苦痛やストレス、不安などを「遊びの力」を用いて支援します。本学では日本で初となるHPS養成教育を実施しており、25年度も講座を開講しました。

■ HPS 養成講座

平成25年度HPS養成講座は、応募者34名のうち15名を第9クール受講生として迎えました。10月31日に開講式から翌年3月14日の修了式まで約4ヶ月間、受講生は講義や実習に取り組みました。



HPS 養成講座の様子

本講座では前期と後期の2期制となっており、前期終了から後期開始までの間にはプレイ・プログラムの計画と実施、小児療養環境の改善への取組、リフレクションに基づくレポートなどを通じ、より学びを深めました。

後期講義では英国から上級HPSであるキャロライン氏を講師に迎え、専門的な実践に基づき、HPSに必要な知識を学びました。その後の実習では専門的な遊び支援の技術を学びました。

14名が口頭試問に合格し、新たにHPSとなりました。子どもにやさしい医療を実現するための挑戦が始まっています。

■ HPS 国際シンポジウム&ワークショップ

平成26年2月1日には、短期大学部においてHPSシンポジウム&ワークショップを開催しました。当日

は「子ども福祉の新たな地平を目指して - 病気・障害・遊びと支援 -」と題し、京都府立大学教授の津崎哲雄氏とジョージア州立大学教授ジェフ・アシュバイ氏による講演、HPSによる遊びのワークショップ、そして病気の子どもを展示する魔法のかばんプロジェクトなど、多彩なプログラムを展開し、全国各地から121名が参加しました。

続く2月2日には、HPS養成講座の修了生が中心となって組織したNPO法人ホスピタル・プレイ協会がHPSのためのスキルアップ講座として「10代の子どもを支援するセラピューティックな遊び活動と理論を学ぶための実践講座」を開催しました。

これらの目的は、子どもの発達を保障するための遊び支援の必要性を明確にし、子どもと一緒に真の遊び活動の実践について学ぶことでした。2日間のイベントには福祉・医療関係者を始め、福祉や医療に関心を持つ一般市民や学生の参加者も多数に上り、これまで以上にホスピタル・プレイに対する関心の高さが伺えました。



HPS シンポジウムの様子



HPS スキルアップ講座の様子

日韓ジョイントビジネスセミナーに参加

平成 26 年 2 月 10 日に第3回日韓ジョイントビジネスセミナーが開催されました。このセミナーは、名古屋大学と釜山の慶北大学の両大学でこれまで行われており、今回本学から大学院経営情報イノベーション研究科の学生と教員が初めて参加しました。

■参加者のコメント

経営情報イノベーション研究科
修士 1 年 グェン ティ ミ ニ ユン さん

セミナーは全て英語によってディスカッションが行われました。セミナーの前半は、本学の上野雄史講師と慶北大学の Seong-Pyo Cho 教授によるレクチャーを受け、後半は釜慶大学、名古屋大学、慶北大学の学生の皆さんが研究成果の発表を行いました。

本学研究科からは榊原源基さんが研究報告を行いました。先生方や先輩たちの素晴らしいプレゼンテーションを見て、自分も先輩のように、頑張っていきたいと決意を新たにしました。こうした国際セミナーは勉強だけでなく、国際的な交流の場としても意味があります。韓国や名古屋の大学の学生たちとの話を通して、貴重な国際的なコミュニケーションを体験することができました。



参加した各大学の皆さんと

グローバル・スタディーズ研究センターがカリフォルニア大学バークレー校日本学研究センターとオープンフォーラムを共催

平成 26 年 3 月 14 日、アメリカカリフォルニア州バークレーの高台で、本学大学院国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センターとカリフォルニア大学バークレー校日本学研究センターの共催によるオープンフォーラムを挙行了しました。

本フォーラムのテーマ「日米の障害者政策の課題と国際的役割」に最も適したキーパーソンである講演者が日米両国から集いました。アメリカ側からは、障害者政策全般の全米権威でシラキュース大学バートンブラット研究所のピーター・ブランク教授、NPO 法人ベネテック CEO として、さらには 25 万人以上の障害者への支援を行い高い評価を受けている社会企業家で、本件のアメリカ連邦政府顧問を務めるジム・フラクターマン氏の 2 名が登壇しました。日本側からは、内閣府障害者政策委員会委員長などの要職を務める、本学グローバル・スタディーズ研究センター長の石川准 教授が登壇し、司会は立命館大学生存学研究センター客員教授、本学グローバル・スタディーズ研究センター客員研究員である長瀬修氏が務めました。

フォーラムは 2006 年に国連総会で採択された障害者の権利条約への対応が国ごとに異なることから議論が始まり、議論が進むにつれ相互理解が深まるとともに、日米間で対話する意義を感じる内容となりました。重厚なバークレー校の知的伝統を感じさせる国際会館インターナショナルハウスから、本フォーラムの案内をさせていただいたこともあり、会場には盲導犬を連れて駆け付けた女性、車いすに座って講演を聞く男性など、主催者が来場してほしいと願った聴衆が集まりました。閉会後も講演者と聴講者との意見が交わり、和やかな空気に包まれました。



講演中の石川教授

聴講者の女性と石川教授



(左から) ジム・フラクターマン CEO、ピーター・ブランク教授、石川教授

高校生のためのリスク学入門を開催

平成 26 年 3 月 15 日、食品栄養科学部と経営情報学部が「生活の中の安全を考えよう～高校生のためのリスク学入門～」と題して合同セミナーを開催し、県内 14 校から 29 人の高校生が参加しました。参加生徒は、東日本大震災以降によく聞かれるようになった「安全」や「リスク」という言葉をどのように理解すべきなのか、ワークショップを通して楽しみながら学びました。

本セミナーは、食品栄養科学部の合田敏尚学部長の協力のもと、経営情報学部の上野雄史講師と食品栄養科学部環境生命科学科の内藤博敬助教が企画し、実際にリスク評価に携わる研究者を講師に招いて実施されました。

セミナー前半では、産業技術総合研究所の岸本充生氏と小野恭子氏、国立環境研究所の小栗朋子氏が、リスク評価などについて身近な例を引き合いに解説しました。後半では、東京大学大学院の関谷翔氏によるファシリテーションの下、危機管理に関するロールプレイを体験してもらいました。参加生徒は、「科学者」、「市役所」、「新聞社」など役割別のグループに分かれ、問題解決のために何をすべきか熱心に話し合いました。

参加生徒の多くは将来、管理栄養士になりたいなどの目標意識をすでに持っていたようです。数人に感想を聞くと、「食品栄養科学部に進学を希望しています。今日の経験を友だちに話したいです」、「栄養学に興味がありますが、環境面にも配慮する必要があることが理解できました」と楽しそうに話してくれました。



ロールプレイで積極的に意見を出し合う参加生徒



ロールプレイの成果について講評する講師と聞き入る参加生徒

はばたきへのご感想をお寄せください

「広報誌はばたき」へのご感想・ご意見、今後取りあげてほしいテーマなどをお聞かせください。

住所・氏名・電話番号を明記し、郵送もしくはEメールでお寄せください。いただいたご意見は今後の誌面づくりの参考とさせていただきます。

また、ご意見・ご感想の内容を広報誌に掲載させていただくことがあります。掲載を希望しない場合、匿名を希望する場合はその旨をご記入ください。

お問い合わせ先は巻末をご覧ください。

全学共通科目新たに開講 「静岡の健康長寿を支える取り組みと人々」

平成 26 年度から、全学共通科目として「静岡の健康長寿を支える取り組みと人々」を新たに開講しました。

本科目は、本学が所在する静岡県が平成 24 年 9 月厚生労働省の調査で健康長寿男女総合第 1 位となるなどの地域的背景から、学生が静岡県の健康長寿への取り組みを学ぶことにより、日本で最も健康を考え、地域に貢献する専門職・人材を輩出することを目指して設けられたものです。

授業では、厚生労働省が提唱する地域包括ケアという考え方に基いた静岡県内の健康長寿への取り組みと、それを支える医師、薬剤師、看護師、管理栄養士などの専門職やボランティアの方々からの講義を受け、グループワークで地域の健康作りについて考えます。



今年度は約 100 名の学生が受講しています

「マサイ族コミュニティとスラムの事例から〜」研究室公開セミナー

平成 26 年 4 月 11 日、国際会計を専門とする経営情報学部 上野雄史講師の研究室公開セミナーが開催されました。ケニア・マサイ族のジャクソン・オレナレイヨ・セイヨさんとその第二夫人である永松真紀さん、フリーライター早川千晶さんを迎え、マグローバル化による経済開発がもたらす社会的排除と貧困について、マサイの人々

の社会や文化を踏まえ講演いただきました。

■参加者のコメント

経営情報学部 3 年 大石真生さん

マサイの人々は、幼い頃から自然と触れ合い、森や動物の知識を身に付けると共に、上の世代から自然と共に生き抜くための知恵を身につけてきました。そういった伝統文化の継承故に、自然の中で生活ができていのでしょうか。彼らにとって、それは当たり前の生活です。牛とともにずっと暮らせれば、それ以上の幸せはないのだそうです。お金に囚われず、自分たちにとって価値のあるものを大切にしている彼らは、とても素敵だと感じました。

しかし、現在は彼らの暮らす村の付近でも経済開発のためのインフラ整備が行われ、自然とともに生きる暮らしは困難になりつつあるそうです。経済成長の影で、彼らの暮らしも変容してしまうかもしれません。それでも、彼らが伝統文化・精神を重んじる素晴らしい民族であることが、ジャクソンさんと永松さんの話をお聞きして知ることができました。

また、早川さんはケニアのキベラスラムというスラム街で生活の場を無くした子供たちのための学校を作っています。アフリカ・ケニアのために出来ることを探して支援をしている早川さんや永松さんのような方々がいいます。自分にも何か出来ることは無いか、考えるきっかけになりました。そして、自分の中で日本の伝統文化、精神を見つめ直す機会よい機会になったと思います。



(左から) 早川千晶さん、ジャクソン・オレナレイヨ・セイヨさん、永松真紀さん

教職員等の給与を削減して地震対策事業を実施しています

静岡県公立大学法人は、静岡県からの要請を受け、静岡県立大学の防災対策をより一層推進し、学生及び教職員等の安全安心を確保するため、臨時・特例的な措置として、教職員及び役員の給与を削減し、それを財源として地震対策事業を実施しています。

※静岡県では「地震・津波対策アクションプログラム 2013」に基づき、平成 25 年度に緊急に対応が必要となる地震・津波対策の財源を確保するため、平成 25 年 9 月から平成 26 年 3 月まで職員の給与を削減し、その財源等に基づき地震等対策事業を実施しています。

【教職員・役員の給与削減:計 391 人、総額 72 百万円】

削減内容	教 員 (正規)	事務職員 (正規)	役 員 (常勤)
給 料 △ 10%	—	—	理事長, 学長, 理事
給 料 △ 8%	教授	事務局長, 事務部長, 部長等	—
給 料 △ 6%	准教授, 講師, 助教 (一部)	室長, 副参事, 主幹等	—
給 料 △ 3%	助教 (一部), 助手	主事	—
管理職手当 △ 10%	管理職の教員	管理職の事務職員	—
実施期間	H25 年 10 月 ~ 26 年 3 月	H25 年 9 月 ~ 26 年 3 月	H25 年 9 月 ~ 26 年 3 月

【地震対策事業の内容 総額 72 百万円】

	件 名	内 容	実施期間・年度
県立大学	窓ガラス飛散防止フィルム設置工事	はばたき棟・図書館・学生ホールの窓ガラスに飛散防止フィルムを施工(貼替等)し、学生等の安全を確保する。	H25 ~ 26
	教員研究室等転倒防止器具(耐震用固定具)配付	棚、ロッカー等を固定するための転倒防止器具等を配付し、学生・教職員の安全を確保する。	H25
	防災用品購入	学生・教職員が緊急時に着用や使用できるヘルメットやレスキューキット等を購入・設置し、地震に備える。	H25 ~ 26
	電子掲示板設置工事	災害等の情報を表示する電子掲示板を各学部棟他に設置する。	H25 ~ 26
	グラウンド・芝生園地放送設備購入	芝生園地・グラウンドに、発災時等に設置する可搬式放送設備を購入し、災害情報等を聞き取り易くする。	H25 ~ 26
短期大学部	体育館非常用発電機等設置	体育館に小型発電機等を設置し避難者の受入に備える。	H25 ~ 26
	窓ガラス飛散防止フィルム設置工事	教育棟・事務棟の窓ガラスに飛散防止フィルムを施工(貼替等)し、学生等の安全を確保する。	H25
	教員研究室等転倒防止工事	教員研究室を中心に棚、ロッカー等を固定し、地震発生時の学生・教職員の安全を確保する。	H25
	防災用品購入	浄水機及び応急救助用資機材を購入する。	H25
	電子掲示板設置工事	災害等の情報を表示する電子掲示板を各棟に設置する。	H25 ~ 26

【実施した地震対策事業の紹介】



ヘルメットを各学部棟などに設置しました。(県大) レスキューキットを各棟などに設置しました(県大・短大) ガラス飛散防止フィルムの貼替等を行いました。(県大・短大) ※写真は短大図書館

受賞一覧

*各受賞の詳細については本学公式サイト内のニュース&トピックスからご覧いただけます。

教員

- 薬学部
- 山口 深雪 助教
- 有機合成化学協会
2013年旭化成ファーマ研究企画賞



薬学部の山口 深雪 助教が、平成 26 年 2 月に有機合成化学協会 2013 年旭化成ファーマ研究企画賞を受賞しました。

この賞は、有機合成化学分野における優れた萌芽的研究（研究企画）を提案した研究者に対して贈られるものです。

研究題目：基質結合能あるいは活性化能を有する配位子を用いる位置選択的反応の開発

学生

*学生の学年は受賞当時のものです。

- 薬食生命科学総合学府 ●博士前期課程2年 野澤 聖明さん ●第12回SOHOしずおかビジネスプランコンテスト最優秀賞
- 経営情報学部 ●4年 前迫 紗由美さん 醍醐 真理子さん 廣田 幸大さん 蔭山 紹美さん ●奨励賞

第12回 SOHOしずおかビジネスプランコンテストの最終審査会が平成 26 年 2 月 19 日に行われ、大学院薬食生命科学総合学府 博士前期課程 2 年の野澤 聖明さんのビジネスプラン『小麦アレルギーの人でも安心！グルテンゼロのグルテンフリーパン！』が、学生部門の最優秀賞に選ばれました。

また、経営情報学部 岩崎ゼミ生のビジネスプラン『もっかふえ』が奨励賞を受賞しました。



- 薬食生命科学総合学府
- 博士後期課程 1 年 井出 和希さん



平成 26 年 3 月 14 日に開催された第 29 回茶学術研究会講演会において、薬食生命科学総合学府薬科学専攻博士後期課程 1 年の井出 和希 さんが、学術奨励賞を受賞しました。

この賞は、優秀な発表を行った学生または若い研究者に対し贈られるものです。

演題：茶およびその成分によるうがいのインフルエンザ予防効果：メタアナリシスによるエビデンスの確立

- 第 29 回茶学術研究会講演会 学術奨励賞
- 経営情報イノベーション 研究科 ●博士後期課程 伏見 卓恭さん(3年) ●第 76 回情報処理学会全国大会 山下記念研究賞
- 修士課程 赤堀 優志さん(1年) 大多和 均さん(2年) ●同全国大会学生奨励賞
- 山岸 祐己さん(2年)

平成 26 年 3 月 11 日から 13 日に東京電機大学（東京都）で開催された、第 76 回情報処理学会全国大会において、本学経営情報イノベーション研究科の学生が山下記念研究賞と全国大会学生奨励賞の表彰を受けました。

- 論文：伏見 卓恭「個々のノードの視点に基づく機能コミュニティ抽出法」
 赤堀 優志「SOM を用いたデジタルサイネージ掲載コンテンツの可視化支援」
 大多和 均「遠隔作業支援システムにおける指導者による AR 情報の重積手法とネットワーク環境が及ぼす影響についての評価」
 山岸 祐己「時系列データにおける分割区間探索法の性能比較」

学生

*学生の学年は受賞当時のものです。

- 薬学部 ●薬学部
中川 愛美さん(5年)
原文音さん(5年)
原田 翔平さん(4年)
- 薬食生命科学総合学府 ●博士前期課程1年 松浦 加奈子さん
- 第29回茶学術研究会講演会 ポスター賞



平成 26 年 3 月 14 日に静岡で開催された第 29 回茶学術研究会講演会において、薬学部 中川 愛美さん、原文音さん、原田 翔平さん、薬食生命科学総合学府 松浦 加奈子さんがポスター賞を受賞しました。この賞は、優秀なポスター発表を行った学生または若い研究者に対し贈られるものです。

- 演題：中川 愛美「緑茶カテキンの抗老化作用：寿命延長および脳機能の低下抑制」
 原文音「玉露の抗ストレス作用に関する検討」
 原田 翔平「緑茶抹の摂取により振戦が軽快したパーキンソン症候群の 1 例」
 松浦 加奈子「テアフラビンの抗酸化性と酸化安定性の解析」

クラブ・サークル

- ジャグリングサークル ●薬学部 2 年 鶴田 聡志さん ●第2回関西大学生ジャグリング大会(平成26年3月11日) ●男子フリー部門 4位

バドミントン部		
●県内リーグ大会 平成 26 年 3 月 8 日・16 日		
▼男子シングル1部 準優勝:薬学部2年 沼子 将大さん 3位:薬学部3年 岩城 潤さん	▼男子シングル3部 優勝:薬学部2年 工藤 悠翔さん	▼男子ダブルス1部 3位:薬食生命科学総合学府修士1年 永井 啓裕さん 薬学部3年 岩城 潤さん 4位:薬学部4年 渡部 紘三さん 薬学部2年 沼子 将大さん
▼女子シングル2部 優勝:経営情報学部1年 大川 真由子さん	▼女子ダブルス1部 3位:国際関係学部2年 花木 夏美さん 看護学部2年 細江 亜也佳さん	
●四葉バドミントン大会 平成 26 年 3 月 22 日・23 日		
▼男子シングル1部 優勝:薬学部3年 岩城 潤さん 準優勝:経営情報学部2年 見玉 哲哉さん 3位:薬学部4年 渡部 紘三さん	▼男子シングル2部 優勝:薬学部1年 青木 広樹さん 準優勝:薬学部2年 工藤 悠翔さん	▼男子ダブルス1部 優勝:薬学部4年 渡部 紘三さん 経営情報学部2年 見玉 哲哉さん 準優勝:薬学部3年 岩城 潤さん 食品栄養科学部2年 山内 昭仁さん 3位:薬学部2年 沼子 将大さん 経営情報学部2年 日比 健人さん
▼男子ダブルス2部 準優勝:薬学部1年 青木 広樹さん 薬学部1年 横内 遥さん 3位:薬学部2年 水口 敦史さん 看護学部2年 山本 英孝さん 3位:薬学部2年 阿形 寿規さん 薬学部2年 工藤 悠翔さん	▼女子シングル1部 3位:経営情報学部4年 兵藤 灯花留さん	
▼女子ダブルス1部 準優勝:経営情報学部4年 兵藤 灯花留さん 薬学部2年 後 英理さん	▼女子ダブルス2部 準優勝:看護学部2年 石坂 みづほさん 看護学部2年 湯田 菜莉紗さん 3位:食品栄養科学部2年 木本 晃帆さん 看護学部1年 大竹 里沙さん	▼女子シングル2部 優勝:食品栄養科学部2年 木本 晃帆さん 準優勝:看護学部2年 大村 果歩さん

Pesca Peito(フットサル)	アイデムカップ(平成26年3月27日)	4 位
--------------------	---------------------	-----

事業目的を考えて
仕事に取り組む姿勢は、
ゼミ活動から学びました。



お名前 鈴木 規之さん
卒業学部 経営情報学部経営情報学科
(2013年3月卒業)
勤務先 ソフトバンクモバイル株式会社

Q1. どんなお仕事をされていますか？

現在は、将来の自社の利益がどれ位になるのかを予測する業務を行っています。この予測を基に、今後の携帯電話事業の戦略が議論されていくため、会社全体への影響が大きい業務にな

ります。難しい分析を完遂した時や、自分の分析で全社の意思決定に貢献できたと感じた時にやりがいを感じます。

Q2. 学生時代の印象的なエピソードはありますか？

ゼミ活動の一環として行った、イベントの企画・開催が印象に残っています。イベントの企画を通して、開催目的や参加者の方々に提供できる価値等を考える癖ができました。この経験のおかげで、現在の業務でも盲目的に分析を行うのではなく、目的を理解した上で取り組む事ができていると思います。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

ゼミのイベント開催時にも教職員の方々大変お世話になりましたが、県立大は教職員との距離が近いです。自分よりも経験や知識が豊富な方々に気軽に相談できる環境がある事が良い所だと思います。また、経営情報学部では、情報学・統計学・経営学の3つを幅広く学べます。現在の業務の中で、データを抽出するためのプログラムのチェック、データの分析、会社経営の観点から見た問題点のリストアップを行う必

要があります。これらを行う上で、学部の授業で学んだ知識は非常に生きています。

Q4. お仕事をするうえで心がけていることや目標はありますか？

新規事業の設立に携わりたいと考えています。現在は、既存事業の分析が主となり、ゼロからサービスを立ち上げることができません。新規事業設立を行う事で、スキルの幅を広げていきたいと考えています。

Q5. 在学生にひとことメッセージをお願いします。

バイト・サークル・ゼミ活動何でも良いので、様々な事に興味を持ち挑戦すると良いと思います。社会人になると大きな責任が伴うので、学生の間に様々な事に挑戦して、失敗と内省を繰り返して、自身を高めていく癖をつけておくと、社会人になってから役に立つと思います。

銀行員として、地域の発展が
自らの喜びです



お名前 宮本 幸夫さん
卒業学部 経営情報学部経営情報学科
(1992年3月卒業)
勤務先 株式会社静岡銀行 館山寺支店

Q1. どんなお仕事をされていますか？

浜松市西区にある静岡銀行館山寺支店の支店長をしています。地域の総合金融機関として、預金（お客様の資産を管理・保管する）・貸付（企業や個人に資金をご融資する）・為替（振

込や送金で債権や債務の決済を行う）という業務のほか、様々なお取引先のご相談や問題解決に取り組んでいます。自分が提供したサービスでお客様に喜んで頂けた時、この上ない充実感と喜びを感じます。

Q2. 学生時代の印象的なエピソードはありますか？

当時の経営情報学部は企業出身の先生方が多かったと思います。中でも静岡銀行出身だった教授の授業が面白く印象的で思い出に残っています。また、イラストがとてもお上手な教授や、授業のなかで独り芝居を始める教授など、今でも忘れません。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

経営・会計・数理統計・情報・（第二外国語は仏語を専攻）等幅広い分野を勉強できたことがとても良かったです。私が入学した当時の県立大は、まだ一部完成されていませんでしたが、周辺を含めた大学の環境・施設は素晴らしいと思います。

Q4. お仕事をするうえで心がけていることや目標はありますか？

静岡銀行員として地域の発展を自らの喜びとし、地域のために貢献すること、お取引先の役に立つことが目標です。また、静岡県立大学の学生・ゼミと当行が協力し合い、地域貢献・企業貢献が出来ればこんなに嬉しいことはありません。

Q5. 在学生にひとことメッセージをお願いします。

振り返ってみると、大学時代はとても大切な時間で楽しかったです。自由になる時間は、まさに大学時代しかないでしょう！だから皆さん、勉強は勿論サークル活動やアルバイトも経験して、いろいろな旅行もたくさん経験することをお勧めします。社会に出てから必ず皆さんの財産になると思います。



職場の近くから見える浜名湖の美しい景色

看護学部新棟 小鹿キャンパスに建設中!

看護学部では、平成27年4月から谷田キャンパスと小鹿キャンパスの2つのキャンパスで講義・演習が行われます。現在、メインキャンパスとなる小鹿キャンパスに新たに看護学部棟を建設しており、今年平成26年夏に完成の予定です。



完成イメージ

既存校舎との調和と新たな伝統を育むデザインで、小鹿キャンパスの魅力を高める「新しい顔」となります

新棟建設工事の進捗情報は、
大学公式サイトでご覧いただけます。

県民の日事業

夏休み県大ツアー 2014 を開催します



1876年8月21日、当時の静岡県と浜松県が合併して現在の静岡県ができました。静岡県では、8月21日を「県民の日」とし、この日を中心にさまざまなイベントや教室を開催しています。

本学ではこの「県民の日」に、研究室や図書館などの施設見学、体験学習など、大学の醍醐味を味わえるイベント「夏休み県大ツアー」を開催します。広く一般の方を対象としておりますので、奮ってご参加ください。

■開催日時 8月21日(木) 13:00～16:30

■参加対象 どなたでも(小学生以下の方は保護者同伴)

*事前申込制となります。(7月1日より応募受付開始予定)

お申し込み方法やイベントの詳細については、随時大学公式サイトでお知らせします。

<http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

お問合せ先 教育研究推進部広報室

TEL 054-264-5130 (平日9:00～17:00)



食品栄養科学部 食品生命科学科 ケミカルバイオロジー研究室

鮒 信学 准教授
(天然物化学、応用微生物学)

■教職員(教員2名)

■学生(大学院生6名、学部生2名)

◎ゲノム情報を基盤とした天然有機化合物の発掘

眠っているゲノム情報を掘り起こす

医薬品、化学原料や食品添加物の多くは、これまで微生物の発酵(微生物の本来の代謝)で作られてきました。微生物は主に土壌などから採取されますが、新規種の発見は減少の一途をたどっています。

こうした中、1990年代から、微生物をはじめ様々な生物のゲノム情報が解読されるようになりました。鮒准教授が担当するケミカルバイオロジー研究室では、微生物や植物のゲノム情報を利用して、天然有機化合物をつくり出す研究が進められています。

ゲノム情報に基づく天然有機化合物の探索は、ゲノマイニングと呼ばれ、『金脈』を採掘することに喩えられます。「微生物や植物には、使われている遺伝子と眠っている遺伝子とがありま

す。この眠っている遺伝子を発現させる、つまり、人為的に潜在能力を発揮させることができれば、遺伝子組換え技術により、植物しか作れないようなものを微生物でも作ることができます。例えばケミカルバイオロジー研究室では、ポリフェノールを合成する酵素を微生物で発現させ、天然ポリフェノールの微生物生成を可能にしました。また、天然には存在しない有機化合物を生産させることもできます。しかし、こうした有用遺伝子の探索は徒労に終わることもあり、「ひとつの金脈の探索には長い年月がかかります」と鮒准教授は言います。そのため、鮒准教授は大学院まで一環した研究・教育が重要と考えており、所属する学部生も大学院進学を希望しています。

広い視野で研究に臨む

現在、ケミカルバイオロジー研究室に所属する学生は、大学院と学部合わせて8名。室員は、食品栄養科学部という名称にとらわれない過ぎないよう日々自戒しています。「本学部では、『食』、『生命』、『環境』を中心に学びますが、この3つをイコールに

考え、すべての面からひとつの研究を見ないと、発見のチャンスを見逃します。薬と食の関係も同じです。研究プロセスや得られた結果が、いつどのように役立つかはわかりません。広い視野を持つことが大事です。」

学生の声

“熱心な研究室で自分を試したい”

◎学部4年生 中村 修人さん

研究室を選ぶ際、微生物を使ってものづくりを行う研究内容と、研究室に熱心な雰囲気に感じてこの部屋を選びました。実際に入って、予想以上に先生や先輩方から良い刺激を受けています。現在私は、あるひとつの酵素に着目し、植物が生産する化合物の生合成経路の解明について研究しています。研究室に入った際に鮒先生が「夢中にならないと研究は上手いかな」と仰られたことが印象に残っていて、まさにそのとおりだと感じました。まだまだ勉強しなければならないことばかりですが、これからも夢中になって研究を続け、大学院を経て将来は企業の研究機関等で働きたいです。



“このラボの一員になりたいと思った”

◎博士前期課程1年 谷 美生夏さん

現在私は、植物由来のトロパニアルカロイドという天然有機化合物の生合成経路の探索について研究しています。学部生のとき、家族のような温かい研究室の雰囲気を感じ、このラボの一員になりたいと思いました。鮒先生とは研究室だけでなく、ときには朝大学に向かう道すがらディスカッションすることもあります。現在は、近く開催される学会に向けて日々奮闘しています。実験に夢中になり、夜遅くまで研究室にいたことが多くですが、研究室の仲間は皆本当に真摯に研究に取り組んでいるので、自分のモチベーションにつながっています。



食品栄養科学部 環境生命科学科 環境微生物学研究室

谷 幸則 准教授
(環境微生物学)

■教職員(教員2名、研究補助員1名、客員共同研究員2名)

■学生(大学院生4名)

<http://mc12408b.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

◎微生物群を規定する環境要因の解明

◎機能性微生物の検索・応用

微生物による新たな資源回収法の開発

環境汚染やエネルギー、食糧などの地球規模の環境問題解決に、微生物が重要な役割を果たすと期待されています。

国際的な争奪戦が起きているレアメタルは、資源の枯渇化が深刻で、海洋資源の採掘にも膨大なエネルギーやコストがかかります。環境微生物学研究室では、この問題に微生物を利用して資源回収の研究が進められています。研究室の谷准教授らが注目しているのが、静岡県内の菊川で採取されたアクレモニウム(Acremonium)という、レアメタルの一種であるマンガン濃縮する微生物。アクレモニウムがマンガン酸化物を作り、それにレアメタルが濃縮することが研究でわかりました。微生物が作るマンガン酸化物は、とても粒子が小さく、

特殊な構造を持つため、様々なレアメタルを効率よく集めることができると明らかになってきています。これを応用し、従来法では非常にコストがかかっていた産業廃液から効率的にレアメタルを回収するなど、低コスト化のリサイクルが可能になり、環境保全にもつながります。

10年前に、谷准教授が静岡県の菊川を調査した際、川底の石の表面に微生物が酸化して被膜化しているのを発見したことが、この研究きっかけ。「実は、アクレモニウムがなぜマンガン酸化物を集めるのか、その理由は解明されていません。環境中には未知の機能を持った微生物がたくさん存在します。資源回収とともに、貴重な水の浄化などに微生物の力を応用していきたいと考えています。」

環境と微生物の関わりを紐解く

研究室では、微生物の新たな機能の探索とともに、微生物を起点とした環境保全に関する研究を行っており、浜名湖や島根県の宍道湖などの調査により、水質と密接に関連する微生物の働きを探っています。

「湖に生息する魚やシジミなどの生物の増減には、微生物が深くかかっています。例えば、藍藻と呼ばれる微生物が増えると、そ

れを餌として好まないミジンコの育ちが悪くなります。逆に珪藻を摂取するとミジンコが活発に繁殖し、その結果ミジンコを餌とする魚が増加します。微生物のバランスがひとつびくずれると、生態系に多大な影響をもたらします。その原因は水域の塩分なのか、水温なのか、環境因子の影響を調査しています。」

フィールドワークの重要性

今年3月の環境科学研究所廃止とともに、研究室は食品栄養科学部に4月に開設した「環境生命科学科」の所属となりました。環境科学と生命科学を基盤とし、食と健康に関わる環境分野で活躍する人材を養成する同学科では、研究者・技術者として力をつけるため、体験を通して学ぶ実験科目やフィールドワークを重視していま

す。谷准教授は環境について学ぶ学生に対し、「ピーカーの中で起きている現象が直接、環境の保全などに応用できるわけではありません。フィールドワークを通して、実際に目で見体験したことを、研究室での実験にフィードバックして欲しい」と述べています。

学生の声

“先生の研究アプローチや発想力が勉強になります”

◎博士前期課程2年 望月 樹里さん

私は、水域の微生物相の生態系への影響について研究しています。以前に在籍していた大学の農学部では、松の木に寄生する線虫を駆除する方法として、キノコの菌に含まれる物質の有用性について研究していましたが、生物的な手法だけでなく、科学的なアプローチと技術を身に付けたと思いこの研究室にきました。

日頃は、研究室での実験やデータ整理が中心ですが、泊まり込みで湖に調査に訪れるなどフィールドワークを定期的に行います。実際に現場に行くことで新たな発見もあれば、気分転換やモチベーションにもつながります。

谷先生の研究に対するアプローチや発想力からいつも多くのヒントをもらっています。今後はそれを生かし、自分自身でもっと能動的に研究を進め、将来は、食品関連企業で衛生管理や品質管理などの仕事に就きたいと考えています。



“自国の環境問題の解決に貢献したい”

◎博士前期課程2年 吳 婷婷さん

中国では日本語学科に所属していましたが、高校生の時から生物が得意で、ずっと環境について学びたいと思っていました。大学3年生のときに日本へ留学し、環境と防災について学んでいます。

現在は、微生物が形成したバイオマンガン物を利用したバナジウムなどのレアメタル回収について研究しています。今までとは全く異なる研究ですが、研究室の先輩方がやさしく、実験器具の使い方からとても丁寧に指導してくれるので、楽しみながら日々研究を行っています。谷先生は、研究だけでなく将来のことなども相談にのってくださりとても優しいです。本当にここへ来てよかったと感じています。

在学中は研究に集中し、修了後は中国へ戻り、環境保全に関する職業に就いて、環境問題の解決に貢献したいです。



教員人事、新規客員教授、名誉教授の紹介

◆就任 平成26年4月1日付

有泉 祐吾	短期大学部	部長
鶴橋 俊宏	短期大学部	副学部長
漁田 俊子	短期大学部	附属図書館長
古賀 震	短期大学部	学生部長
犬塚 協太	男女共同参画推進センター	センター長
小林 公子	男女共同参画推進センター	副センター長
竹内 宏	グローバル地域センター	センター長
富沢 壽勇	グローバル地域センター	副センター長
濱下 武志	グローバル地域センター	副センター長
今井 康之	学長補佐	国際交流担当
中嶋 圓	学長補佐	産学連携担当
菅 敏幸	学長補佐	広報担当
岩崎 邦彦	学長補佐	社会人教育担当
西田 在賢	学長補佐	社会人教育担当
吉村 紀子	学長補佐	語学教育担当
佐々木 隆志	学長補佐	短期大学学術担当
石川 准	グローバル・スタディーズ研究センター	センター長
若林 敬二	食品環境研究センター	センター長
中村 順行	茶学総合研究センター	センター長

◆採用 平成26年4月1日付

吉成 浩一	薬学部	教授
川戸 勇士	薬学部	助教
山田 静雄	薬学研究院	特任教授
山本 剛	薬学部	特任助教
下山田 真	食品栄養科学部	教授
若林 敬二	食品栄養環境科学研究所	特任教授
浅間 哲平	国際関係学部	講師
吉村 紀子	国際関係学部	特任教授
奥村 昭博	経営情報学部	特任教授
荒井 孝子	看護学部	教授
岩本 真弓	看護学部	助教
高橋 智子	看護学部	助教
松浦 明美	看護学部	助教
中垣 紀子	看護学部	特任教授
階戸 陽太	言語コミュニケーション研究センター	特任講師
小川 睦美	言語コミュニケーション研究センター	特任助教
中嶋 圓	事務局教育研究推進部 産学連携室	特任准教授兼事務局 教育研究推進部 産学連携室長
永倉 みゆき	短期大学部社会福祉学科	教授
野口 有紀	短期大学部歯科衛生学科	准教授
山本 学	短期大学部社会福祉学科	講師

平成26年5月1日付

鈴木 美希	薬学部	助教
平井 啓太	薬学部	助教

平成26年6月1日付

疋田 智也	薬学部	助教
-------	-----	----

◆異動

高林 ふみ代	看護学部	准教授	短期大学部 看護学科から
--------	------	-----	-----------------

◆昇任 平成26年4月1日付

大石 哲夫	薬学部	教授
尾上 誠良	薬学部	教授
岩尾 康範	薬学部	講師
清水 広介	薬学部	講師
山崎 泰広	薬学部	講師
湯瀬 裕昭	経営情報学部	教授
尹 大榮	経営情報学部	教授

平成26年6月1日付

刀坂 泰史	薬学部	講師
-------	-----	----

◆退職 平成26年3月31日付

出川 雅邦	薬学部	教授
前田 利男	薬学部	教授
山田 静雄	薬学部	教授
上村 和秀	薬学部	准教授
林 秀樹	薬学部	講師
山本 博之	薬学部	助教
鰐淵 清史	薬学部	助教
池内 和忠	薬学部	特任助教
大泉 康	薬学研究院	特任教授
萱嶋 泰成	食品栄養科学部	助教
小浜 裕久	国際関係学部	教授
吉村 紀子	国際関係学部	教授
奥村 昭博	経営情報学部	教授
芹澤 幹雄	経営情報学部	教授
木村 正人	看護学部	教授
中垣 紀子	看護学部	教授
杉山 洋介	看護学部	講師
長田 知恵子	看護学部	講師
若林 敬二	環境科学研究所	教授
寺崎 正紀	環境科学研究所	助教
藤森 敦之	言語コミュニケーション研究センター	特任助教
原田 茂治	短期大学部一般教育等	教授
藤原 愛子	短期大学部歯科衛生学科	教授
内藤 初枝	短期大学部一般教育等	准教授
黒木 久美子	短期大学部看護学科	教授
増田 明美	短期大学部看護学科	准教授
宮前 典子	短期大学部看護学科	助教

平成26年4月30日付

川島 博人	薬学部	准教授
-------	-----	-----

◆新規客員教授 平成26年2月1日付

田中 一成	地方独立行政法人静岡県立病院機構 静岡県立総合病院 病院長	教授	H26.2.1 ~ H28.3.31
-------	----------------------------------	----	-----------------------

平成26年4月1日付

池田 雅彦	常葉大学大学院環境防災研究科・ 社会環境学部 教授	教授	H26.4.1 ~ H29.3.31
影山 慎二	医療法人灯弘会 かげやま医院院長	教授	H26.4.1 ~ H29.3.31
鈴木 直義	静岡県立大学名誉教授	教授	H26.4.1 ~ H29.3.31
出川 雅邦	静岡県立大学薬学部教授 (H 26.3.31 定年退職)	教授	H26.4.1 ~ H29.3.31
中村 利夫	藤枝市立総合病院副院長	教授	H26.4.1 ~ H29.3.31
前田 利男	静岡県立大学薬学部教授 (H 26.3.31 定年退職)	教授	H26.4.1 ~ H29.3.31
渡邊 泰雄	横浜薬科大学教授 総合健康メディカルセンター所長	教授	H26.4.1 ~ H29.3.31
上村 和秀	中部大学生命健康科学部准教授	准教授	H26.4.1 ~ H29.3.31
林 秀樹	岐阜薬科大学准教授	准教授	H26.4.1 ~ H29.3.31

県大と短大の両図書館では、「文献検索ポータル」という新しい検索ページを今年3月から公開しています。文献検索ポータルでは、一度キーワードを入力すれば、データベースのタブを切り替えることで同一画面から7つのデータベース検索ができます。

キーワードを入力して検索ボタンをクリックすると、オレンジ色のタブのデータベースを検索します

県大短大両図書館の検索結果一覧では、利用状況がわかり、表紙画像が表示されるものもあります

検索できる外部データベース

県立中央図書館
CiNii Books
NDL Search
CiNii Articles
Google Scholar
JAIRO

【蔵書検索】

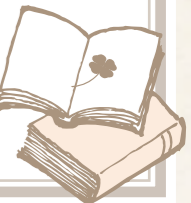
【論文文献情報検索】

検索結果一覧で、返却予定日がわかり、そのまま予約することができます

図書館広報誌「My Library 2キャンパス図書館だより」6号(館内配布・大学公式サイト図書館ページ掲載)で機能の詳細をご確認ください。

附属図書館の新しい検索ページ「文献検索ポータル」をご存知ですか。

図書館だより



偶然目にした本が、あれは必然の出会いだったと後になって思うことがよくあります。その一冊が本書です。四編(①宮澤賢治の暴力②柄谷行人論③私小説的労働と協働④柳田國男と神の言語⑤批評と殺生⑥北大路魯山人からなり、①で倫理、②で理論、③で言葉、④で美を問う(同書三三九頁)という、この徹底した「問う」経験から生まれた本書によって、私の現実とは回転させられました。

大澤は三十代の文芸批評家。宮澤賢治論の完成までに十年、二十代で賢治の「生存の暴力を見つめる詩人はいかにして絶対の慈悲を实践したか」(同書帯紙)に対峙したことになります。この一冊と出会った時、私は六十歳。徹底してどう生きるかを自分に問うたのは十九歳、本書に出会うまでは、そう思っていました。

大澤はあとがきで言っています。「自分を問うこと。これが私の批評原理である。それは、自らの行動を反省したり、否定したりすることとは、少し違う。たとえば、人はしばしば、否定しても何一つ傷つかない

シリーズ
私の1冊の本

神の批評
大澤信亮

看護学部教授 古川文子
紹介図書
『神の批評』

著者名:大澤信亮
● 出版社:新潮社
● ISBN:978-4-10-327811-5
● 図書館所蔵:県大1階閲覧室
● 請求記号:910.26/

本学教員からの寄贈著書

- 佐々木隆志先生(短大部)
『Study of End-Stage Care Management in Japan』
中央法規出版(369.9/Sa75)
- 濱下武志先生(グローバル地域センター)
『華橋・華人と中華網
移民・交易・送金ネットワークの構造と展開』
岩波書店(334.522/H26)
- 鈴木俊文先生・立花昭彦先生(短大部)
『災害時の介護 介護施設が巻き込まれる5つの変化』
株式会社(369.5u96)

ことだけを都合よく自分で否定する。そうすることで何かを反省した気になる。そして忘れてしまう。それは他者を消すことであり、つまりは自分に閉じることだ。とはいえ自己批判や自己否定がまったく無意味とは思わない。少なくとも何かに出会っているからだ。しかし魂が磨かれていない。「危機(critical)」として訪れる、そんな他者との出会いを、性急に否定したり肯定したりするのはなく、人生に与えられた有難い恩寵として、それに相応しいかたちで受け取りたいと思った。」(同書三三六頁)と。

四編に通底するのは自分を問い続ける実践です。そのためか最終ページに至っても読み切った実感はなく、再びページを捲くらせる「問う」が瞬時に立ち現われてきます。新たな危機(critical)に對峙することになるのですが。例えば、十九歳で経験した自分に対する問いは真摯に魂を磨くものだったのかと。

公認 古庄自動車学校

県大生応援 キャンペーン!!

2014年
9月30日火まで

期間中の入校で

TDLパスポートが
もらえる!



※普通自動車で入校の方が対象です。 ※限定解除の方は対象外とさせていただきます。

普通車(免なし・原付所持)

AT 支払総額 298,216円 (税込)

上記料金には仮免許試験手数料1,700円(非課税) 仮免許交付手数料1,100円(非課税)が含まれます

税別価格 273,533円
 仮免許試験手数料1,700円及び交付手数料1,100円含まず
 税込価格(8%) 295,416円
 仮免許試験手数料1,700円及び交付手数料1,100円含まず
 仮免許試験手数料(非課税) 1,700円
 仮免許交付手数料(非課税) 1,100円

MT 支払総額 311,176円 (税込)

上記料金には仮免許試験手数料1,700円(非課税) 仮免許交付手数料1,100円(非課税)が含まれます

税別価格 285,533円
 仮免許試験手数料1,700円及び交付手数料1,100円含まず
 税込価格(8%) 308,376円
 仮免許試験手数料1,700円及び交付手数料1,100円含まず
 仮免許試験手数料(非課税) 1,700円
 仮免許交付手数料(非課税) 1,100円

古庄は
特典がいっぱい!

夜間料金無料

技能オーバー無制限保証

再検定料一切不要

優先予約で短期取得可

免許は取ったけどしばらく
乗ってないから運転が不安で...

ペーパードライバー講習
1時間無料で卒業後も安心!!

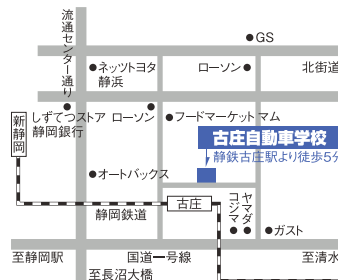
公認 古庄自動車学校 静岡市葵区古庄3丁目11番15号

0120-155-168 (携帯からもOK)

URL <http://www.flushyou.co.jp>

Mail main@flushyou.co.jp

【基本料金にふくまれるもの】入所料、教科書代、適性検査料、規定学科教習料、規定技能教習料、効果測定料、修了検定料、卒業検定料、高速道路通行料、写真代、卒業証明書交付料、仮免許学科試験手数料、仮免許交付手数料の当該車種に係わるすべての金額及び消費税※古庄自動車学校では基本的には高速教習を実車走行で実施。【別途料金の案内】【予約キャンセル料】本体価格1時間あたり1,000円(8%税込価格1,080円)※当日分の予約をキャンセルする場合【自己都合自由教習】本体価格1時間あたり4,000円(8%税込価格4,320円)【途中解約の場合】お客様の都合により退校する場合は、同校の規定により未受講学科教習料、未受講技能教習料、未受講検定料などは返金されます。
 ※古庄自動車学校の個人情報の取り扱いについてはホームページ内の個人情報保護ポリシーを参照。



広報誌はばたきに広告を掲載する事業者を募集しています。

広告掲載については本学公式サイト「企業・一般の方へ」のページをご覧ください。